

αηρ はギリシャ語で「あえる」と読み、大気・天空を意味します。空で会える、仲間に会えるを合言葉に!



「とびまる」
マスコットキャラクター

広報

あえる

HOSPPA

Vol.65

発行日 2024.1.15

夏も冬も北海道のスカイスポーツを楽しもう!

カイト(凧)と私

札幌凧の会 会長 中島 義雄

スカイスポーツイベント情報

F3C日本選手権大会決勝進出を目標に

煤田 義広

「見えた景色のその先へ」

北海道大学体育会航空部 佐々木 琴美



写真撮影
広瀬 素洋氏
場所：2023余市フェアにて



公益社団法人北海道スカイスポーツ協会

HOKKAIDO SKY SPORTS ASSOCIATION

HOSPPA

検索

〒060-0042 札幌市中央区大通西4丁目道銀ビル TEL011-232-4347

カイト（凧）と私

札幌凧の会 会長 中島 義雄

私と凧の出会いは今から35年前、高校同期に誘われスポーツカイトのイベントに参加したことがきっかけです。田中光夫さん（故人）と出会いスポーツカイトの魅力にハマリ今日まで続いています。

札幌凧の会は田中さんが50年前に立ち上げ、スポーツカイト・和凧・連凧・凧教室（子供中心）等、道内のイベントに参加し凧の普及に努めています。それぞれについて書かせていただきます。

【スポーツカイト】アメリカ海軍のボール・ガーバー中佐がターゲット・カイト（標的凧）を開発。



スポーツカイト



スポーツカイトワールドカップに参加した選手のサイン

コントロールバーを持ったダイヤ型の凧で第二次世界大戦中、飛行機の絵（ゼロ戦）を描き海軍の実射訓練に使用され戦後アメリカで1964年頃スポーツ用に2本のラインで操作したのがスポーツカイトの始まりと言われています。

札幌凧の会では北海道スカイスポーツ協会のフェアに参加し、スポーツカイトのデモフライトを行っています。音楽に合わせカイトが天空を自由に曲芸飛行するところが見どころです。残念ながら競技人口はかなり減少していますが、我々がイベントなどに参加し一人でも多くの人に興味・関心を持つてもらえるように啓発活動したいと思っています。

スポーツカイトのイベントで特に記憶に残っているのは1996年石狩市制施工記念で石狩市でワールドカップが開催され世界各国の選手と交流した事です。Tシャツに選手たちのサインをもらったことも懐かしいです。

【和凧】竹の骨組みに和紙を張った凧。平安時代以前に中国から伝

現在、2024年の干支「辰」デザイン思案中です。

GW羊ヶ丘展望台イベントをはじめ、今年6月には札幌市白石区の川下公園にてカイトフェスティバル（凧の祭典）を開催し全長25mの「凧の八ちゃん」を無事に揚げる事が出来ました。小学校低学年中心の凧づくり教室など様々なイベントを通じて子供たちに凧揚げの楽しさを体験してもらっています。ほとんどの子供たちは凧作りが初めて。一生懸命作成し自分で作った凧が揚がった時の喜んだ姿を見ると準備した我々も大変嬉しく思います。



全長25m凧の八ちゃん



江別市野幌、凧作り教室

わり貴族・武士・庶民と伝わったのは江戸時代だそうです。戦国時代は、のろし、味方に自分たちの居場所を知らせる旗印等、戦の道具に利用され徳川平定後、戦乱もなく平和な時代が続いた間に武士の子供の玩具から庶民の子供の玩具へと身分に関係なく誰でも楽しめるように変化したそうです。江戸時代、参勤交代で日本各地に凧文化が広まり現在でも浜松・白根（新潟）・春日部（埼玉）等伝統文化として続いています。



日本の凧の会秋季大会前夜祭 新潟県三条市

私は現在、日本の凧の会の会員でもあります。本部は東京日本橋のたいめいけんに隣接する凧の博物館にあり会長はたいめいけんのオーナー茂出木さんです。都道府県に約800名の会員がいて毎年、日本の凧の会の秋季大会が開催されています。開催地が毎年変わるので全国各地へ行きたくさんの凧仲間との交流が続いています。今年10月には新潟県三条市の大会に出席し全国の仲間たちと楽しく幸せな時間を過ごしてきました。

35年間、凧を通じてたくさん仲間が出来て幸せ者だと思っています。これからも仲間との時間を大切に、凧の伝統文化を一人でも多くの人に広めていきたいです。皆さんこれからもよろしくお願い致します。



六角凧チャレンジ優勝(日本の凧の会)

中島 義雄氏 プロフィール

1948年 函館生まれ
父が転勤族のため小中学校各2回転校、高校はサッカー、大学は空手道部和道流に打ち込む。札幌へ戻り転勤のない会社就職し十数年前に退職。趣味を楽しむ毎日。
2001年 日本の凧の会秋季大会（東京晴海で開催）六角凧チャレンジ優勝
2003年 青森県五所川原全国凧揚げ大会 津軽凧三代目中野敬造杯入賞



北海道150年を記念しての連凧

—スカイスポーツイベント情報—

北海道スカイダイビング倶楽部 代表 磯谷 正勝

2023年度は5月1日より10月15日の間体験会を開催しました。例年より2週間短い期間となりましたが、昨年度の1.5倍の体験者数となりました。

今年のゴールデンウィークは天候に恵まれ多くの方が体験できましたが、その後例年になく天候の不安定な日が多かったように感じます。

参加者の状況はコロナ明けのためか、全国からの新婚さんが目立ち、また、九州、関西から体験者が多く参加していただきました。年齢的にも50・60代が増え健康寿命の延長化と思われる嬉しい傾向がみられました。

尚、今年はエスコンフィールドでの野球観戦に合わせキツネの耳を付けたソフトヘルメットを準備し、「可愛い子はより可愛く」をコンセプトに北の大空を満喫してもらいました。

来年度も引き続き安全第一に楽しく飛んでいきたいと考えております。

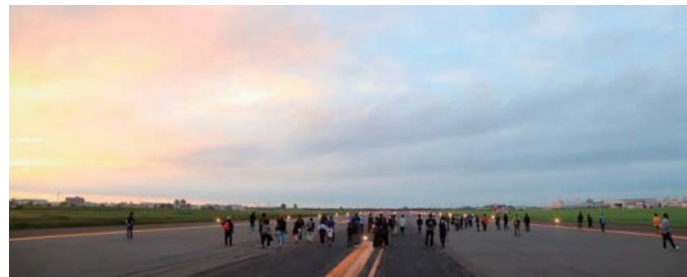


札幌丘珠空港「空の日」イベント 「早朝滑走路ウォーキング&HAC格納庫見学会」

開催日／令和5年9月10日(日) 4:30~6:30

開催場所／札幌丘珠空港滑走路及びHAC格納庫

応募総数764名の中から抽選で選ばれた100名の参加者の皆様、滑走路ウォーキング&HAC格納庫見学会に参加いただきました。滑走路では、大の字に寝転ぶ方、ジャンプして写真を撮られる方、また、HAC格納庫では、HACの飛行機や丘珠駐屯地のヘリコプターや航空救難消防車などが展示され、参加者の皆様は、思い思いの時間を過ごされておりました。



第50回北海道バルーンフェスティバル

今大会は、1974年に日本初の競技会として誕生し、ついに50回目の節目を迎えました。開催期間については例年より1日多い、夏休期間中の山の日を挟む8月10日(木)~13日(日)の4日間で開催しました。

参加機数は、競技参加が53機、オフィシャルと係留機合わせて10機の合計63機となり、今世紀では最大規模となりました。

競技フライトについて、気象条件は北海道の北に位置する停滞前線の影響により大気の状態が不安定で、競技の設定が非常に難しいものとなりましたが、大会期間中3フライト、3タスクを実施することができました。

会場ではクラフト飛行機づくりや、スポーツカイトショーも実施され、観客数は46,000人と多くの方がご来場されました。



あさっぴー気球 台湾の空に

旭川バルーンクラブ 菅井 将章

旭川市のキャラクター「あさっぴー」をかたどった熱気球が台湾国際バルーンフェスティバルの主催者からオファーを受け、昨年7月20日から12日間初参加しました。同フェスは台湾・台東市で60日間のロングランで開催され、ブラジルやアメリカなど各国から計42機が参加したビッグイベントです。連日約5,000人の観衆を前にスタンディング展示とフリーフライトを行い、素晴らしい台湾の空を経験しました。



第13回マイクロライト日本選手権大会2024 in 白老(皆で飛ぶベアー)が開催されます。

期間／令和6年10月12日(土)~14日(月・祝) 場所／白老滑空場

みんなのスカイスポーツ教室

●熱気球無料体験搭乗会 ●スポーツカイト体験会 ●紙飛行機体験会

(札幌市)

開催日 令和5年6月18日(日)

場所 前田森林公園

(幕別町)

開催日 令和5年7月9日(日)

場所 明野ヶ丘公園



今年みんなのスカイスポーツ教室は札幌市と幕別町で2回開催しました。

両開催地とも定員の数倍の方からお申込みいただき今年も大好評に終わりました。

残念ながら、札幌での熱気球体験は風が強く飛ばせませんでしたが、カイト、紙飛行機体験は開催しました。幕別町はスカイスポーツの絶好のコンディションとなり、熱気球、カイト、紙飛行機体験と予定どおり開催できました。

●おびひろ気球クラブ 代表 石岡 正雄 ……………

幕別町明野ヶ丘公園で7月に開催したスカイスポーツ教室に参加しました。

熱気球(係留)に無料で体験搭乗できるということで定員の数倍もの人たちの申し込みがあり、抽選で100名の方に搭乗体験をしてもらいました。当日は絶好のコンディションに恵まれ、子供たちの歓声が心地よく、楽しい一日でした。



●帯広スポーツカイトクラブ 代表 太田 健市 ……………

協会からのお誘いがあり7月9日(日)幕別町の「スカイスポーツ教室」、8月12日(土)上士幌町バルーンフェスタに参加いたしました。両日とも風が弱く苦労しましたが何とか微風用のカイトで対応いたしました。幕別町は来場者が少なかったですが上士幌町のバルーンフェスタは50回記念ということもあり大勢の人が来場していました。カイトは4人チームで参加、デモの後体験会も行いました。10人限定としましたがオーバーするほど人気でした。何より上士幌町役場の担当者が興味をもって来て特別講習会のようにになりました。スポーツカイトはメジャーなスカイスポーツとはなっておらず私たちも高齢になってきました。イベントを通じて若い世代に引き継がれるよう願っています。



●帯広紙飛行機を飛ばす会 会長 木川 博史 ……………

コロナも5類となり大きなイベントに参加して紙飛行機づくりを楽しんでいただける環境が戻ってきました。7月には北海道スカイスポーツ協会の「スカイスポーツ教室」に参加しました。幕別町明野ヶ丘公園スキー場の広場で紙飛行機づくりを行い、子供たちにスチレンペーパーを使った紙飛行機づくりを、8月には、上士幌町で開催された第50回北海道バルーンフェスティバルに参加して紙飛行機教室を行いました。

初めて体験する子供たちは、紙飛行機を青空に高く飛ばして大変喜んでもらえました。紙飛行機づくりで飛行機や科学に興味を持ってくれと嬉しいです。



❖熱気球搭乗体験記 帯広市 須田しのぶ

ずっと憧れていた熱気球に乗れるなんて！私の心は躍った。それも、子供の頃に遊んでいた明野ヶ丘公園から生まれ故郷を一望できるなんて！

「うわぁ♡大きい！かわいい♡熱っ！」初めて間近で熱気球を見て、テンションMAXの私たち家族。「どうして浮くの?」「ガスはどれだけもつ?」「鳥に穴は開けられないの?」と、次から次へと担当の方を質問攻めに。

搭乗の順番が迫ってきた矢先、風がどんどん強まり、「もしかして中止!?!」と心配に…。そんな心配をよそに無事搭乗！これまで味わった事のない爽快感、眼下に広がる街並みの美しさは今でもずっと心に残っている。

その後は、紙飛行機体験。コツをつかみ、風にのせて遠くまで飛ばしていた時の子供たちの目の輝きは忘れられません。

初めての体験にとっても楽しい時間を過ごせた。関係者の皆様ありがとうございました。



F3C日本選手権大会決勝進出を目標に

サッポロエアーマイツ 会長 煤田 義広

私が初めてラジオコントロールヘリコプターを飛ばしたのは小学3年生の夏休みでした。当時、双子の兄と一緒に父の指導にて小型の練習機に木材で自作したアメンボ型補助器具を取り付け練習していました。毎週日曜日、朝から晩まで飛行場にいた事を覚えています。最初の頃地面から機体を離陸させる事がとても難しく、うさぎ跳びのような練習を繰り返す日々が続きました。トライ&エラーを繰り返しながらフライトの練習、機体作りの基礎や航空機がなぜ空を飛ぶのか模型でしか実践できない事を日々行っていました。時には電子機器のトラブルや飛行時の不注意で墜落させる事がありその都度父が不機嫌になりながらも直してもらった記憶があります。小学5年生でメーカー主催の大会に初級で出場し、少しずつ目標ができ、高校三年生の時に日本選手権予選を通過し、メーカーよりサポートを受けて始めてF3C日本選手権大会に出場致しました。その後私は道内企業に就職し一般企業の会社員をしながらアマチュアのサンデーフライヤーとして活動をしてきました。一度はプロの世界に憧れを抱いた事もありましたが、趣味の世界で生き残る事が大変難しく趣味として楽しむ事を選びました。

私が主に行っている競技はF3Cというラジコンヘリコプターの競技で内容としては約10分間のフライトで静演技、(ホバリングさせフラッグ上に静止し図形を描く)動演技(上空を飛び図形を描く)があり、例えて言うならばフィギュアスケートのような規定演技を減点法にて採点するイメージです。

私は2010年頃よりスカイスポーツフェアに参加しデモフライトを行ってきまし。空を飛ばスカイスポーツの一つとして広い北海道の空を盛り上げていければと考えております。これからも無理なく楽しんでいけるものに出来るよう活動してまいります。



「見えた景色のその先へ」

北海道大学体育会航空部 佐々木 琴美

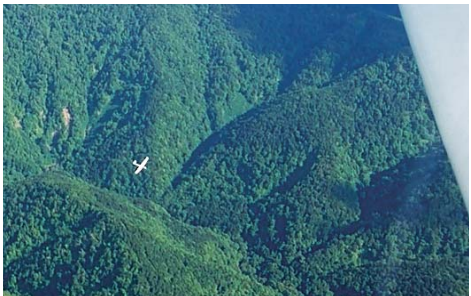
私は山頂から眺める景色が好きでした。綺麗な空の下に尾根が連なっていたり、遠くに街並みが見えたり、普段は見られない景色が広がっています。しかしそれ以上進むと崖から落ちてしまうので、景色を見渡せはしてもその奥を見に行くことはできません。私の隣を鳥が優雅に飛んでいくのに、私はその場から動けないでいるのがいつもどこかしく感じていました。

北大入学に際して、何か大学らしい新しい事を始めてみようと思っていた私は、航空部というグライダーで空を飛べる部活があることを知りすぐに入部を決めました。グライダーは飛行機やウインチに引っ張ってもらうことで発航し、上空で曳航ロープを切り離して、紙飛行機のようにじわじわ高度を落としながら滑空します。しかし、上昇気流の中に留まると空気の力で押し上げられ、高度を得ることが出来ます。これをソアリングと呼び、稼いだ高度を利用して遠くに進むことを繰り返して、野山を越え長距離飛行することをクロスカントリーと呼びます。

雪の無い季節は部員と共に毎週末滝川に通いフライト訓練を行ってきました。高高度や遠くに飛んだとき、い



4機体でソアリング中、前方の2機について行く。



初めて1人で2時間以上飛行したとき(他機からの写真)。小さく写っているのが著者機。



煤田 義広氏 プロフィール

1987年 札幌市生まれ36歳
フクシマガリレイ株式会社(冷蔵ショーケースメーカー)に在籍
趣味、家族、仕事を両立して頑張っています。
現在は札幌エアーマイツ会長の1年間務めています。
F3C日本選手権大会出場15回



つもは見えない景色が見えて感動する経験が何度かありましたが、特に記憶に残っているのはある夏に見た利尻富士です。4機体でソアリング中、一列に並んで滑空している時に先頭機の「利尻富士が見えるね」という無線を聞きはつとして目をこらすと、遠くにかすんで小さい利尻富士が見えました。かすんで小さいはずなのに、すぐそこにあるような、すぐ行けてしまうような気がしました。他にも雨竜沼湿原や旭川の街並みなどが見える度に、山頂から動けなかったときとは違い、どんどん空を進んで見えた所に行ける素晴らしさを感じます。

遠くに行くには上昇気流を捕まえて高度を稼がねばなりません。私たちが知らない内にも、毎秒、大気は常に動いていますが、その空気の動きをいかに上手く使えるようになるかが課題です。私にはこれが本当に難しく感じます。日射や地形・風・雲などから上昇気流の位置を推測し捕まえるのですが、ベテランパイロットには私には見えていないヒントがたくさん見えているようです。今は必死に上昇気流を捕まえ1、2時間浮いているのがやっとですが、私もその世界に近づこうと努力しています。

私が北大航空部に所属するのは今年(2023年)が最後であり、来年以降は社会人として忙しくなると思いますが、技術を磨いて学生時代に出来なかったクロスカントリーをし、見えた景色のもとと先に行けるようになりたいと思っています。

北大航空部では今年、23年ぶりにウインチ曳航(巻上機でグライダーを引っ張る発航方法)で学生が北大所有の単座機で飛行しました。約10年前に、倉庫で眠っていた単座機を復活させた先輩方や、ウインチ曳航の復活・定常化を進めた先輩方・現部員の努力の賜物であり、みんなの想いがようやく叶った瞬間でした。私はパイロットとして搭乗していましたが、これまでに多くの人が想いを繋いできたことに感謝の念を強く感じました。

数年間コロナで苦しめられた部は、今再び活気を取り戻して来れています。これからも部には山有り谷有りだと



北大の所有機「朔風」



23年ぶりの学生による朔風ウインチ発航をみんなでお祝い。

思いますが、創部50年を超えた北大航空部が一層発展していくように願っています。自分も今後は後代に繋いでいく立場として関わり、部の発展に寄与していきたいと思っています。そうしてグライダーを通して新しい景色を楽しむ人が増えて、北海道、全国のグライダー界がより活性化していくって欲しいと感じます。私はこれからも頑張りますので、これまで関わってきた方々、これから関わる方々、どうぞよろしくお願いします。一緒に素敵な景色を見ましょう。

佐々木 琴美氏 プロフィール

2000年 広島県広島市生まれ
2018年 北海道大学に入学。
航空部に入学しグライダーを始める。
2022年 自家用操縦士免許取得
2024年 北海道大学農学院を修了し就職のため東京に転居予定



集まれ 海と空の交わる地 よいち

開催日：2023年9月10日(日)

4年ぶりの開催となりました。最高のスカイスポーツ日和に恵まれて、大勢の家族連れで賑わいました。



絶好のコンディションでスタート



熱気球 受付に大行列



モーターグライダー



本物みたい かつこいい〜



紙飛行機教室



操縦は日本チャンピオン 滝野さん



ラジコンヘリ 人も乗れそう〜



カイト教室



ヘリコプター いってらっしゃ〜い



モーターパラグライダー (5機編隊)



堰八会長から歓迎の挨拶



音楽に乗って



余市パイピングソサエティのみなさん



紙飛行機競技会 頑張ったね〜



今野さんのお手本



お楽しみ抽せん会



連風